

今週（9月2日から9月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、2日の2年債の発行や4日の10年債の発行、税・年金保険料揚げなどの要因により大きな資金不足となったが、各業態の資金調達需要が高まることは無く、週を通して落ち着いた展開となった。積み後の後半に入ったことを意識する動きも特段見られなかった。当座預金残高は週を通して400兆円前後で推移した。無担保コールO/N物は、全体的に資金調達需要が弱く、低めのレートでの取引が中心となったが、大手行からの▲0.080～▲0.075%近辺のビッドが下支えとなり底堅く推移した。週を通して出合いレンジは▲0.080～▲0.05%が中心となり、無担保コールO/N物加重平均レートは月曜日▲0.063%、火曜日から木曜日までは▲0.067%で推移した。無担保コールの市場残高は、概ね8兆円台後半から9兆円台前半で推移した。ターム物は、1W～2W物で▲0.05%近辺での引き合いが見られた。一方で期越えとなる1M物より長いターム物は、オファーが少なく閑散であった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、6日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額508億円（期落ち額937億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.115～▲0.08%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年132～140、10年336～355、20年160～169、30年55～63、40年7～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き低水準のレートで推移した。3M物は、店頭での買いもあって▲0.165%近辺での出合い、6M物・1Y物は▲0.280%程度での出合いと堅調に推移した。

3日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。平均落札利回り較差+0.012%、按分落札利回り較差+0.010%と、在庫調整の売りから弱めの結果となった。

6日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.162%から▲0.165%まで買い進まれる展開となったものの、平均落札利回▲0.1619%、按分落札利回▲0.1563%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後は相場が一変し、セカンダリーマーケットで新発3M物が▲0.160%から▲0.178%まで買い進まれるなど強含みで推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、石油・商社業態等から大型発行が見られたものの、月初のため全体的に発行件数も少なく、5,200億円程度の償還総額に対して、3,700億円程度の発行総額にとどまる償還超のマーケットになった。しかし、市場残高は合計21兆円台後半、特に事業法人のみで見ると19兆円台半ばと引き続き過去最高水準で推移している。発行レートに関しては、市場残高が高水準で推移しているものの、市場には依然強い玉確保ニーズがあると思われる、期内物で0%付近が中心で、期越え物であれば買いニーズは更に強くマイナス圏での決着が中心となっている。

CP等買入オペが5日に事前予定通り4,000億円でオファーされたが、期末月で例年レート水準の低下する9月の第一回目のオペにあたり、動向が注目される中、平均落札レート▲0.003%、按分落札レート▲0.006%と、市場の大方の予想通り、いずれも前回比で低下する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/2 (月)	20,620.19	△ 0.270	106.16	△ 0.063	△ 0.117	4,015,800
9/3 (火)	20,625.16	△ 0.280	106.30	△ 0.067	△ 0.095	4,005,200
9/4 (水)	20,649.14	△ 0.290	105.99	△ 0.067	△ 0.089	3,965,900
9/5 (木)	21,085.94	△ 0.275	106.40	△ 0.067	△ 0.090	3,968,900
9/6 (金)	21,199.57	△ 0.250	107.05	△ 0.064	△ 0.089	3,961,700

来週（9月9日から9月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
9/9 (月)	8月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 4-6月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 7月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 7月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 23,000億円 9/10発行	流動性供給 4,000億円 9/10発行	7月の米消費者信用残高
9/10 (火)	8月のマネーストック(日銀 8:50)	エネルギー 対策借入 7,000億円 9/20借入		
9/11 (水)	7-9月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	5Y 19,000億円 9/12発行		8月の米生産者物価指数 7月の米卸売売上高
9/12 (木)	7月の機械受注統計(内閣府 8:50) 8月の企業物価指数(日銀 8:50) 7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)			ECB定例理事会(金融政策発表) 8月の米財政収支 8月の米消費者物価指数
9/13 (金)		TB3M 42,800億円 9/17発行	流動性供給 6,000億円 9/17発行	8月の米小売売上高 7月の米企業在庫 9月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/9 (月)	1,100	1,300	2,400	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補充		12,600 ▲ 900 ▲ 200 ▲ 100 100	12,000 500	14,400	TB3M発行▲43000償還42800
9/10 (火)	0	▲ 8,000	▲ 8,000	CP買入		4,000	4,000	▲ 4,000	TB6M発行▲23000償還21400 流動性供給発行▲4000
9/11 (水)	1,000	3,000	4,000				0	4,000	
9/12 (木)	▲ 1,000	▲ 24,000	▲ 25,000				0	▲ 25,000	源泉税揚げ 5Y発行▲19000
9/13 (金)	▲ 1,000	6,000	5,000				0	5,000	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	100	▲ 21,700	▲ 21,600	—	▲ 1,100	17,100	16,000	▲ 5,600	

9/9は日銀予想、9/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は12日に5年債の発行などの要因により若干の資金不足が予想される。無担保コールO/N物加重平均レートは、積み最終週ということもあり、少しずつ上昇していくと考えられるが、積み最終日13日（金曜日）は、一部新積み期間に掛かるため、運用サイド・調達サイドとも、慎重な動きが予想される。レポ市場は、積み期終盤となるものの、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、9日に6M物、13日に3M物の入札が実施予定となっており、堅調な相場がどこまで継続するか、市場動向が注目される。CP市場は、これから期越物の発行案件がどの程度膨らんでいくかが注目される。又、9月で二回目となるCP等買入オペが予定されており、前回のオペの結果を受けて更なるレート低下への期待感も強い中、そのレート水準が注視される。

主要なイベントとしては、国内では9日に4-6月期のGDP2次速報、海外では12日に8月の米CPI、ECB定例理事会が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品の取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入